

日越友好高齢者介護セミナー開会の挨拶

大阪健康福祉短期大学代表 藤本 文朗 教授

私自身は1980年の初訪越以来、ホーチミン市障害児教育センター元所長のBichさんを始め、ホーチミン市を中心としたベトナムの障害者福祉領域との交流があり「ベトちゃんドクちゃんの発達を願う会（1985～）」「日越友好障害児教育セミナー（1990～）」「枯葉剤（ダイオキシンを含む）被害児の現地調査（1995～）」などの組織に関して活動を行ってきた。そして、主に以下のような関係機関と深い交流を深めてきた。

- ① ホーチミン市立幼児師範学校（本学と学術協定を結んでいる）
- ② ツーズー産婦人科総合病院平和村（ベト・ドクが住んでいる場所）
- ③ タンロック高齢者・障害者センター
- ④ ホーチミン市障害児教育センター
- ⑤ ダーチェン保育所（ホーチミン市第4区）－仏教系私立
- ⑥ ティーゲ養護高齢者センター（ホーチミン市ビンタン地区）－主にベトナム戦争で戦死した息子の母親が入所。公立。

このような交流の基盤に立ち、大阪健康福祉短期大学が開学して以来、本学の「教育理念」の第3項目に「本学は健康と社会福祉の研究と教育の分野で他の高等教育機関と連携し、社会に開放し、国際交流を図る」に基づき、今年で5回目の「日越友好ツアー」を開催している。そこには教職員ならびに学生が多数参加し、ベトナムの福祉や教育の現状を学ぶ貴重な機会になっている。

そのような交流が実を結び、2005年12月には本学とホーチミン市立幼児師範学校との間に学術協定を結ぶに至った（於：ホーチミン市立幼児師範学校）。その際に、ベトナム側のChuc校長から今後ベトナムにも到来するであろう高齢社会に備え、介護の専門家養成に関して強い関心が示された。ベトナムは、諺にも「一人の老いた母は三方の垣根」とあるように子孫に

見守られての生活条件がいまだに残っている地域も多い。しかし、都市でもドイモイの影響により、核家族化が進み、高齢者を取り巻く条件は年々厳しくなっていくことは明らかと言えよう。そこで、両校は今回の高齢者介護セミナー開催に向けて協力して準備を進めてきた。

また、2006年8月14日～17日には、本学教員4人（藤本・小椋・小田・田中）が訪越し、両校共同での12月の第1回日越高齢者介護セミナー開催について、ホーチミン市立幼児師範学校のVang副校長やChanh教務主任らと打ち合わせを行なうとともに、ベトナムの高齢者介護の実態を知るため、在宅と2施設を訪問し、日本との習慣・風土の違いについての調査を行った。

調査をおこなって明らかになったこととして、第一にベトナムでは、日本で使用されているような「福祉」や「介護」の概念が弱いのではないかとと思われる。特に「介護」という言葉は存在せず、看護との区別もあまり弱いと思われる。2000年に制定された「高齢者法」では、第9条の2項に「高齢者の支援、扶養する義務のある者とは、配偶者、実の子ども、あるいは孫のことである」と定めている。法以前に儒教精神が徹底していて、どこに行っても、誰に質問しても「子どもが親を見るのは当然、年寄りは大切にして当然」という人々の意識は、高齢者虐待などが報道される日本の実態との格差に愕然とする。従って介護をしている人は、物質的生活が決して豊かとは思えないのに、笑顔でやさしく心を込めて行っており、むしろ「親の面倒を見る」事に誇りを持っているのではないかと感じた。

第二に、ベトナムの高齢者問題は、今後確実に起こってくるであろうと予想される。少子化が進行しており、二人目の出産に悩んでいる女性は、無料であった保育、教育にお金がかかるようになってきた事を挙げていた。都市の住宅は核家族化の進行を現している。

医療の発展で平均寿命も70歳位になっており、今後も伸張するであろうし、高齢化率もすでに11.7%である。

第三に、高齢者が「よく物忘れをするようになった」という認識はあるが、「認知症」という概念があまり無い。実際には何人かの「認知症」の高齢者を訪問したが、現在のベトナムでは、認知症の人は少数であるため、家族、共同社会の中で問題なく暮らしている実態がある。しかし、今後は、平均寿命の伸びで認知症の人は増加するであろうと予測される。

第四に、今後増加するであろう要介護者である高齢者の生活の質、すなわち高齢期をどのように生きるかという視点が必要になってくると思われる。

これから両校の学術交流や介護セミナーを通して、共同でベトナムの高齢者介護の将来について考えていきたいと思う。そして、ベトナムの良い伝統を活かした介護の専門家の育成を行なっていきたい。それを通して、これまで効率、経済至上主義、誤った個人主義を追及してきた日本社会の在り方への反省も含めて、日本での高齢者介護の在り方を考え直したいと思う。